

# 3 授業科目及び担当教員

## 修士課程

区分	授業科目	単位数	授業形態	履修学年								担当教員	備考	修了要件 単位数	建築士 関連科目
				1年次				2年次							
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
基礎科目群	デザイン特論	1	講義	■								◎研究科長/小松/板垣/森本/境野/御法川/金/北/岡谷		必修2単位	
	イノベーションデザイン特論	1	講義		■							板垣/◎森本/吉川/中村/渡邊			
	美学	1	講義	■								小松			
	デザインと法務	1	講義	■								◎福本/渡邊/*藤澤			
	形と素材	1	講義		■							*竹本/◎*寺内			
	構想発想法論	1	講義		■							板垣		選択2単位	
	サステナブル環境論	1	講義	■								◎羽原/*飯野(由)			◇
	インターフェイス論	1	講義		■							◎金山/徳久			
	デジタルテクノロジー	1	講義	■								徳久/真壁/◎増田/森本			
文化財建造物とデザイン	1	講義	■								津村			◇	
専門科目群	社会とアート	2	講義	■								◎小松/*伊藤(達)*神野			
	地域と工芸デザイン	2	講義	■								◎小松/*富井/*鞍田/*吉田(守)			
	建築物と空間の安全	2	講義	■								福本			◇
	文化財建造物活用論	2	講義	■								◎津村/*梅嶋			◇
	ランドスケープ・アーキテクチャ論	2	講義	■								柏原			◇
	建築設計論	2	講義	■								◎山下/与那嶺/*飯野(由)			◇
	クリエイティブディレクション	2	講義	■								◎水川/*後藤(彰)*藤富			
	プロトタイピング演習	2	演習	■								真壁/◎増田/森本			
	フィールド分析演習	2	演習	■								板垣/◎金山/森本/*中島			
プロジェクト・マネジメントワークショップ	2	演習		■							◎板垣/川和/森本/渡邊				
プロジェクト科目群	地域特別プロジェクト演習Ⅰ	4	演習		■							専任教員/◎板垣		必修	
	地域特別プロジェクト演習Ⅱ	4	演習					■				専任教員/◎板垣		自由選択科目として修了要件には含まない	
シミュレーション科目群	実務実習	4	実習		■							専任教員			
	起業演習	4	演習		■							◎板垣/福本/渡邊/*栗井			
	建築士インターンシップA	4	実習		■							柏原/北/◎佐藤/菅原/津村/羽原/福本/山下/与那嶺/渡邊		選択4単位	◆
	建築士インターンシップB	6	実習		■							柏原/北/◎佐藤/菅原/津村/羽原/福本/山下/与那嶺/渡邊			◆
領域科目群	プロダクトデザイン研究	4	演習		■							金石/金澤/金山/菊池/◎境野/鈴木/真壁/増田	代表教員:学科長		
	視覚デザイン研究	4	演習		■							阿部/天野/吉川/金/◎徳久/長瀬/ビューラ/平原/真壁/水川/御法川/山田(博)/山本(敦)	代表教員:学科長		
	美術・工芸研究	4	演習		■							遠藤/岡谷/菅野/小林/小松/竹田/◎中村/長谷川/藪内	代表教員:学科長	選択4単位	
	建築・環境デザイン研究	4	演習		■							柏原/北/◎佐藤/菅原/津村/羽原/福本/山下/与那嶺/渡邊	代表教員:学科長		◇
	イノベーションデザイン研究	4	演習		■							◎板垣/岡谷/金山/川和/北/吉川/佐藤/伊達/津村/中村/森本/渡邊			
特別研究	10	演習						■			研究指導教員		必修		
シミュレーション科目	建築士インターンシップC	4	実習		■							柏原/北/◎佐藤/菅原/津村/羽原/福本/山下/与那嶺/渡邊		自由選択科目として修了要件には含まない	◆
	建築士インターンシップD	4	実習		■							柏原/北/◎佐藤/菅原/津村/羽原/福本/山下/与那嶺/渡邊			◆
	建築士インターンシップE	4	実習		■							柏原/北/◎佐藤/菅原/津村/羽原/福本/山下/与那嶺/渡邊			◆
修了要件	30														

## 博士(後期)課程

科目名	単位数	必修 選択	授業 形態	1年次	2年次	3年次	担当教員名
				前	後	前	
特別プロジェクト研究演習※	2	必修	演習	●			研究指導教員、研究指導補助教員
造形理論	8	必修	実習		●		研究指導教員、研究指導補助教員
造形理論研究指導					●		研究指導教員

注1 = インターンシップ科目は建築・環境デザイン領域の学生のみ履修可能

注2 = ◆は建築士試験における実務経験認定に係るインターンシップ科目、◇はインターンシップ関連科目

注3 = 建築士受験関連科目(◇または◆の記載がある科目)は博士(後期)課程学生も自由選択科目として履修登録が可能。ただし、インターンシップ関連科目(◇の記載のある科目)については、修士課程で開講している場合においてのみ博士(後期)課程学生は履修することができる。

注4 = \*は非常勤講師

注5 = 社会人経験がある履修者で、「地域特別プロジェクト演習Ⅰ」、「実務実習」、「特別プロジェクト研究演習」のプロジェクトと同等の実務経験をすでに有すると研究指導教員及び担当教員が認める場合は、当該実務経験の内容をまとめた報告書の提出により、本科目での活動に代えて評価を行うことがある。(※)

注6 = ●は履修開始可能な学年・学期を示す。

注7 = 大学院学則第37条に規定する在学期間の短縮(6カ月間または1年間)をする場合、特別研究については1年次から履修可能。

# 4 修了要件と学位授与プロセス

## 4-1 修士課程修了要件

以下のすべてを満たした場合、修士課程修了となり修士（造形）の学位を取得することができます。

- ・本大学院修士課程に2年以上在学すること。
- ・本大学院修士課程の授業科目について、「基礎科目群」から必修2単位、選択2単位以上、「専門科目群」から選択4単位以上、「プロジェクト科目群」から必修4単位、「ソーシヤルスキル科目群」から選択4単位以上、「領域科目群」から選択4単位以上、特別研究10単位を履修し、合計30単位以上を修得すること。
- ・修士論文又は特定の課題についての研究の成果を提出し、審査及び試験に合格すること。  
※特定の課題についての研究の成果を提出する場合、研究副論文の提出が必要となります。

### 学位の授与プロセス

年次	月	事 項	備 考
1年次	10月	領域科目群中間発表	発表の概ね1週間前に教員に配付するレジメをPDF形式で提出(形式指定あり、要とりまとめ)
2年次	6月	中間発表(公開)	発表の概ね1週間前に教員に配付するレジメをPDF形式で提出(形式指定あり、要とりまとめ)
	10月	予備申請	「学位授与予備申請書」を教務課に提出
	11月	学位審査委員決定	研究科委員会にて学位審査委員決定
	1月	修士論文、特定の課題についての研究の成果 提出締切	指導教員に以下を提出 修士論文の場合 (1) 修士論文 正1部、副2部 (2) 学位授与申請書(論文)1部 (3) 論文要旨(A4版2,000字程度の和文及びA4版1,000語程度の英文)各3部 特定の課題についての研究の成果の場合 (1) 学位授与申請書(特定の課題についての研究)1部 (2) 研究副論文(A4版20,000字程度、和文)正1部、副2部 (3) 研究副論文要旨(A4版2,000字程度の和文及びA4版1,000語程度の英文)各3部 (4) 作品一式の概要がわかる審査用写真資料3部
	1月下旬	審査、修士論文等発表会(公開)	発表の概ね1週間前に教員に配付するレジメをPDF形式で提出(形式指定あり、要とりまとめ)
	2月中旬	審査結果の報告	主査は審査委員会が作成した修士論文等審査結果及び最終試験結果報告書を提出
	2月下旬	修了及び学位の認定	研究科委員会にて修了及び学位授与の可否を審議、議決
	3月上旬	大学保管用	成果物一式を教務課に提出 修士論文の場合 ・修士論文完成版 ・論文要旨(和文及び英文)完成版

2年次	3月上旬	大学保管用	特定の課題についての研究の成果の場合 ・研究副論文完成版 ・研究副論文要旨(和文及び英文)完成版 ・保存用写真資料
	3月	修士学位記授与式	

### 審査基準

修士論文等の審査の評価は、以下の審査基準に基づき行います。

修士論文	特定の課題についての研究(研究副論文を含む)
(1) テーマ設定の適切性 (2) 論旨の一貫性 (3) 文章表現、論理構成 (4) 独創性、新規性 (5) 研究に対する探求度 (6) 完成度 (7) 形式的要件	(1) テーマ設定の適切性 (2) 技術的表現力 (3) 独創性、新規性 (4) 研究に対する探求度 (5) 完成度 (6) 研究副論文に関する文章表現、論理構成 (7) 形式的要件

### 指導体制

研究指導は、主担当となる研究指導教員が行います。

研究内容に応じて、任意で「副担当」として論文作成指導能力を有する研究指導教員から指導を受けることができます。

### 在学期間の短縮

大学院学則第37条第1項の規定に基づき、修士課程において「特に優れた研究業績を上げた者」は、研究科委員会の議を経て、在学期間を短縮することがあります。

この場合、特に優れた研究業績を上げた者についての適用要件は以下のとおりです。

- (1) 研究を進める中でその研究が飛躍的に進行し完成する場合
- (2) その研究が国内外にて高い評価を受けた場合
- (3) 修了要件のうち、特別研究を除く所定の単位を修得しているまたは修得見込みであること

また、大学院学則第37条第3項の規定に基づき、入学前に修得した単位を本大学院において修得したとみなす場合であって、本大学院修士課程の教育課程の一部を履修したと認めるときは、研究科委員会の議を経て、在学期間を短縮することがあります。

### 中間発表等のレジュメ形式

中間発表等で教員に配付するレジュメは以下の形式に沿って作成してください。また、発表プログラムを付してPDF形式にて教務課に提出してください。

#### 研究主題目

研究副題目  
研究発表者所属領域  
研究発表者学籍番号  
研究発表者氏名  
研究発表者ローマ字氏名  
研究指導教員氏名

キーワード：(日本語単語または熟語で3つ程度。)

□□□  
□□□

#### 段組みについて

- ・ 中間発表等、学内発表用のレジュメは、段組みしないこと。
- ・ 審査用、大学保管用の論文は、段組み可。
- ・ 指導教員と相談すること。

※1 ページあたりの文字数は1200文字を目安とし、原稿枚数は図版を含め4枚を上限とする。

※レジュメの構成(参考例)

はじめに／1. 研究目的／2. 研究方法／3. 結果／4. 分析・考察／おわりに／参考文献

※図版表、グラフ等は適宜、文中に挿入し、通し番号をつけたキャプションを一緒に添えること。(例：図1、表1など)

※レジュメの作成において不明な点があれば教員に確認すること。

※大学保管用の提出物は所定のフォーマット(別途通知)を使用すること。

## 4-2 博士(後期)課程修了要件

以下のすべてを満たした場合、博士(後期)課程修了となり博士(造形)の学位を取得することができます。

- ・本大学院博士(後期)課程に所定の年限以上在学すること。
- ・本大学院博士(後期)課程の授業科目を10単位以上修得すること。
- ・研究指導を受けた上、博士論文についての審査及び試験に合格すること。

### 博士の学位授与プロセス

年次	月	事項	備考
1年次	10月	中間発表(公開)	発表の概ね1週間前に教員に配付するレジュメをPDF形式で提出(形式指定あり、要とりまとめ)
2年次	10月	中間発表(公開)	発表の概ね1週間前に教員に配付するレジュメをPDF形式で提出(形式指定あり、要とりまとめ)
	3月	予備申請	教務課に以下を提出 ・学位授与予備申請書 ・博士論文中間報告書
3年次	4月	中間発表	発表の概ね1週間前に教員に配付するレジュメをPDF形式で提出(形式指定あり、要とりまとめ)
	9月	審査委員決定	研究科委員会にて審査委員承認
	10月中旬	学内発表会(研究科教員)	論文(草稿)に関する発表 ※事前に審査委員による確認を行う  発表の概ね1週間前に教員に配付するレジュメをPDF形式で提出(形式指定あり、要とりまとめ)
	11月中旬	論文の提出	指導教員に以下を提出 (1) 学位授与申請書(課程博士)1部 (2) 博士論文(A4版、和文又は英文)正本1部、副本4部 必要に応じて研究作品一式を提出することができる。 (3) 博士論文要旨(A4版2,000字程度の和文及びA4版3枚程度の英文)各5部 (4) 論文目録及び別刷 各5部 (5) 履歴書 5部 (6) 審査があったことを示す根拠資料 (例 採択通知/投稿規程)

3年次	12～1月	論文審査・最終試験	審査委員による口頭諮問、論文審査 最終試験等
	2月	博士論文発表会 (公開)	発表の概ね1週間前に教員に配付するレジュメをPDF形式で 提出(形式指定あり、要とりまとめ)
	2月中旬	審査結果の報告	主査は審査委員会が作成した博士論文等審査結果及び最終試 験結果報告書を提出
	2月下旬	修了及び学位の認定	研究科委員会にて修了及び学位授与の可否を審議、議決
	3月中旬	大学保管用	論文、公表論文データを教務課に提出
	3月	学位記授与式	

### 審査基準

博士論文の審査の評価は、以下の審査基準に基づき行います。

博士論文(研究作品を要しない場合)	博士論文(研究作品を要する場合)
(1) テーマ設定の適切性	(1) テーマ設定の適切性
(2) 分析力	(2) 技術的表現力
(3) 論旨の一貫性	(3) 論旨の一貫性
(4) 文章表現、論理構成	(4) 文章表現、論理構成
(5) 独創性、新規性	(5) 独創性、新規性
(6) 研究の成熟度	(6) 研究の成熟度
(7) 考察力	(7) 考察力
(8) 有用性	(8) 有用性
(9) 完成度	(9) 完成度
(10) 形式的要件	(10) 形式的要件

### 指導体制

研究指導は、主担当となる研究指導教員が行います。

研究内容に応じて、任意で「副担当」として論文作成指導能力を有する研究指導教員から指導を受けることができます。

### 在学期間の短縮

大学院学則第37条第2項の規定に基づき、博士(後期)課程において「特に優れた研究業績を上げた者」は研究科委員会の議を経て、在学期間を短縮することがあります。

この場合、特に優れた研究業績を上げた者についての適用要件は以下のとおりです。

- (1) 研究を進める中でその研究が飛躍的に進行し完成した場合
- (2) 論文提出要件を満たし、かつ国際的に高い評価を受けた場合
- (3) 博士(後期)課程において所定の単位を修得していること

### 中間発表等のレジュメ形式

中間発表等で教員に配付するレジュメは9ページに記載の形式に沿って作成してください。また、発表プログラムを付してPDF形式にて教務課に提出してください。